

◎高市首相所信表明の結語「政治とは独断ではなく、共に語り、悩み、決める営みだ」。ぜひ実践していただきたい。

# CTG 建交労 とちぎ

発行所 全日本建設交運一般労働組合  
栃木県本部 〒327-0315  
栃木県佐野市吉水駅前1-2-1  
Tel 0283-62-7312 fax 0283-62-7318  
www.kenkourou.or.jp/  
E-mail: dqj06744@nifty.com

定期大会

## 軽油の暫定税率も早期撤廃を！ 不当な白ナンバー排除反対！

を

あいさつをする栃木ダンプ支部梅田委員長



**高市新内閣の燃料高騰対策は？**  
昨年大会で新たに選出されたダンプ支部梅田委員長は「諸物価の高騰で私たちを取り巻く状況は厳しさを増しています。今後白ナンバー排除問題も懸念されます。仕事を守るためにますます組合の役割が重要になっていきます。みなさんのご協力をよろしくお願いします」と訴えました。  
県本部石井書記長は組合員参加型の組合活動の重要性を訴え、議案を一括提案し採択されました。  
選出された県本部役員  
◎執行委員長 山内健人 ◎副委員長 渡邊仁一、梅田賢一 ◎書記長 石井勝己

10月26日(日)、佐野市内で第26回県本部定期大会と第45回ダンプ支部定期大会を開催しました。  
今大会では、多発する交通事故を防止するため具体的な事故防止の提案を行いました。また、確定申告、トラック新法の施行にともなう「白ナンバー問題」などについて学習を行いました。

### 労災事故倍増 最重要課題

この一年労災事故が倍増し16件発生しました。また、交通事故も増加傾向です。

事故防止対策として危険交差点改良の取組みが提案されました。

ドライブレコーダーの装着率は向上していますが、データ削除等不具合も少なくありません。損保ジャパン柳川さんが通信型ドライレコを紹介を行いました。

今年の税制改正も踏まえて「自主計算書」「帳簿」を活用した学習会を行いました。

### 白ナンバー問題 その本質は何か

県内でも道路会社会材プラントを中心に、白ナンバーダンプ排除の動きが強まっています。

大会では、大型ダンプ白ナンバー化の歴史的な経過を学習し、問題の本質が建設業界の合理化を目的に政官財一体となって「つくら

れた白ナンバー」であることに確信を深め、白ダンプの働く権利を守る取り組みを方針として確認しました。



### みんなで考える ナンバー問題学習会

◎日時 2026年1月25日(日) 午前10時～  
◎場所 戸田市文化会館(埼玉県戸田市上戸田4丁目8-1)  
◎主催 建交労 関東ダンプ協議会

### 荷なく降下事故

8月28日、山形県山辺町で67歳の男性が、ダンプ車体フレイムと降下してきた荷台に上半身が挟まれ死亡する事故が発生しています(労災保険未加入)。要注意！



報道されるのは一部の死亡事故のみ。「はさまれかけた」事故は相当数発生しているはず。「ストッパーしないなんて・・・」誰もがそう考えます。多分、はさまれた人も・・・。



「問題なし」でも「税務調査」はストレスです。おかしい日本語の通知書を手にする石川さん。

# 「更正決定等をすべきと認められない旨の通知書」？ 税務調査したけど「問題なし」ってこと

「税務調査」と聞くと多くの人は「修正申告を迫られ多額の税金を支払うことになる」そんなイメージだと思います。しかし「税務調査」はあくまで「申告内容の確認」が建前です。「確認」した結果「問題なし」ということも当然あります。

☆☆☆☆

石川秋義さんは半世紀近く確定申告をしてきました。今年をはじめ税務調査を受けることになりました。

「長年ちゃんと申告してきた。もう引退する頃になってなんで来るのか驚いた」

石川さんは大学ノートに手書きで収入と経費をつけ、請求書、領収書も保管しています。

「雑費とか細かい経費はなくしたのもあるけど、大体とってるから毎年それをまとめて組合の「自主計算書」に写してそのまま申告するだけ。税務署の人は3年分こまかくチェックして帰っていったけど電話で『所得税も消費税も問題ありませんでした。書類を送ります』って言うって送ってきたのがこの「更正決定等をすべきと認められない旨の通知書」。意味がわからない。要するに問題なしってことらしい(笑)」

## 税務調査にAI導入 調査件数大幅増に 納税者の権利徹底を

国税庁は税務調査でのAI導入を本格化しています。

過去の申告内容、法定調書など膨大なデータを学習させ、不正や申告漏れの可能性が高いパターンを把握します。提出された申告書はAIによってリスクスコアが付けられ、このスコアが高い申告が調査対象に選ばれます。

一見精度が上がりますが、上記の石川さん以外でも、なぜ調査対象になったのか不可解なケースが続いています。

コンピュータにまず学習させるのは納税者の権利ではないでしょうか。

## つくられた白ナンバー①



事故現場。まだ背番号なし。

1960年代前半から「白トラ」による交通事故は社会問題になっていました。そんななか1966年12月15日、愛知県猿投町(現豊田市越戸町)で、ダンブカー(8トン)が保育園児らの列に突っ込み、保育士1名を含む11名が死亡する大惨事が発生しました。これが「猿投ダンブ事故」です。

「国は無駄ダンブを取り締まれ！」国民の怒りは無策を続ける政府にむけられます。世論対策として、早急に何らかの法規制が求められていました。

事故を起こした運転手は白ナンバーで川砂利を「運搬」していました。雇用主は「白トラ」として道路運送法違反で検挙されます。

ところが、白ナンバーのままでダンブを使用したい建設業界の要望を受けた法律が成立します。これが「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」いわゆるダンブカー規制法です(1967年)。

当時の国会議事録を調べると、政官財のどす黒い思惑が透けて見えます。(次号に)



ナンディカさんも発言



エアケミ齋藤分会長は会計監査に

## 栃木県労連第37回定期大会



人が参加しました。今大会では19年の長きにわたり議長を務められ、建交労の定期大会に何度もご出席いただいた阿波長二議長(JMITU)が退任され、新議長に青木康裕氏(福祉保育労)が選出されました。建交労からは石井書記長が事務局次長、齋藤隆氏が会計監査に選出されました。

## 阿波議長ご苦勞様でした 県労連定期大会開催

9月27日、宇都宮市で栃木県労連第37回定期大会が開催されました。建交労から9

## 日常生活事故も 弁護士費用特約で

組合員須藤博之さんは今年2月夫婦で福島県に温泉旅行に行きホテルで奥さんが転倒、大腿骨骨折の大けがを負いました。ホテル加入の保険会社の提示額に納得できないため組合と協力関係にある弁護士に相談することになりました。

近年自動車の任意保険では「弁護士費用特約」の加入が広がっています。しかし、多くの場合「自

動車事故限定型」になっています。須藤さんも残念ながら「限定型」でした。組合で扱う損保ジャパンには「日常生活・自動車事故型」があります。特約保険料は月3,500円程度で日常生活で起こる1事故について300万円まで弁護士費用が支払われます。

組合では複数の法律事務所と協力関係を結んでいます。ご検討ください。